

4 活動目標ごとの重点的な取り組み

活動目標 1 住民主体による地域福祉活動の推進

活動の柱 1 みんなで声をかけあい、つながりあう地域づくり

現状と課題

本市では、都市化の進行や住民の生活環境の多様化に伴い、地域の中での人と人とのつながりの希薄化が更に進行しています。日頃から、隣近所と家族ぐるみの付き合いを行い、悩みごとの相談や頼みごとが容易にできる方がいる反面、近所付き合いがなく、相談する相手もなく、一人思い悩んで地域の中で孤立化する方々も増えています。

取り組みの内容

① あいさつ運動、声かけ運動の推進

校区社協や自治会等、地域の関係者とともに、子どもから高齢者まで、地域の人と人とのつながりを再構築する方法を探ると同時に、日々の暮らしの中で、住民一人ひとりがあいさつを心がけ、声をかけあい、つながりを形成できる環境づくりをすすめます。

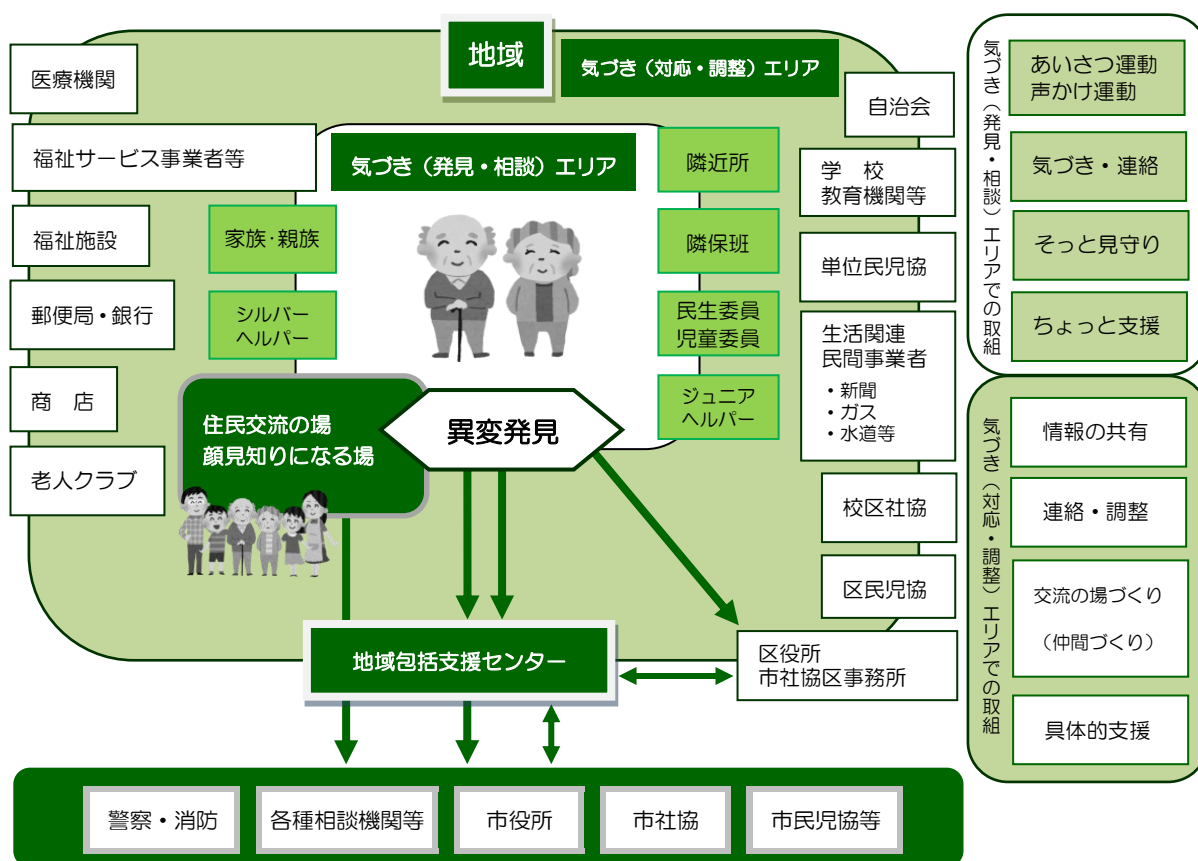
② 住民交流の場づくり

地域で各種団体や住民相互の交流を通じた顔見知りになる場づくりと情報共有ができる機会を創出することにより、新たな住民層の参加拡大を図り、あわせて地域のニーズや住民の生活課題を早期発見することにより、高齢者や障がい者、子育て家庭等で見守りや生活支援が必要な方々に対しては、地域全体で重層的なサポートができる体制づくりをすすめながら、孤立化の防止に努めます。

③ 地域支援ネットワークの構築

住民の生活課題の早期発見は、隣近所や地域による異変の気づきが大きな鍵となります。目配りや気配りができ、つながりあう地域であれば、埋もれてしまう問題も少なくなると考えられます。発見した問題を地域で共有し、解決策についてみんなで考え、住民だけでは解決できない問題は、専門機関と連携・協力し解決を図ります。（図2参照）

図2 地域における支えあいの体制イメージ



具体的施策

事業名	事業概要
あいさつ運動の推進	あいさつ運動を積極的に展開している校区または町内での実践状況や効果等の情報を共有できる機会をつくります。
「住民交流の場づくり」支援	職員が参加する会議や研修会等で、住民同士が顔見知りになる機会「住民交流の場づくり」の必要性を説明し、小地域に数多くできるように積極的に支援します。
地域支援ネットワーク推進事業	地域（隣近所）による「見守り・助けあい」活動が展開できるよう校区社協とともにネットワークづくりを行います。



校区社協を中心に、福祉・医療関係者が定期的に集まるネットワーク会議



校区住民の顔見知りの機会となっている「健康ウォーク」



市社協が推進している「命のボタン」事業

活動の柱2 地域ぐるみによる心と体の元気づくり

現状と課題

住み慣れた地域で、いつまでも健康でいきいきとした生活をおくるためには、現役世代からの健康づくりが必要であり、住民一人ひとりが健康管理や体力増進など、自らの健康づくりについての関心と意欲を高めることが重要となります。

また、高齢者で外出をしない理由として、「健康に不安がある」や「外出する場所がない」といった意見が多く、このことが閉じこもりにつながる大きな要因と考えられますので、気軽に集える場をつくり、楽しみながら健康づくりができる機会をつくる必要性が求められています。

取り組みの内容

① 住民の健康づくり、仲間づくりの推進

いつまでも元気で、健康寿命の延伸を地域の中で実現するため、スポーツ交流や文化・趣味活動を通じた体力増進や仲間づくりが実践できる環境づくりを地域とともに推進します。

② 高齢者の生きがいづくりと世代間交流

高齢者がいつまでも元気で住み慣れた地域で、これまで培ってきた知識や経験を活かし、「生涯現役」として生きがいをもって社会参加（地域活動）できる場づくりをすすめ、子どもたちを含めた多くの地域住民の参加を促すことにより、仲間づくりや世代間交流を通じた住民相互のつながり形成を図り、地域ぐるみによる元気づくりの輪を広げます。

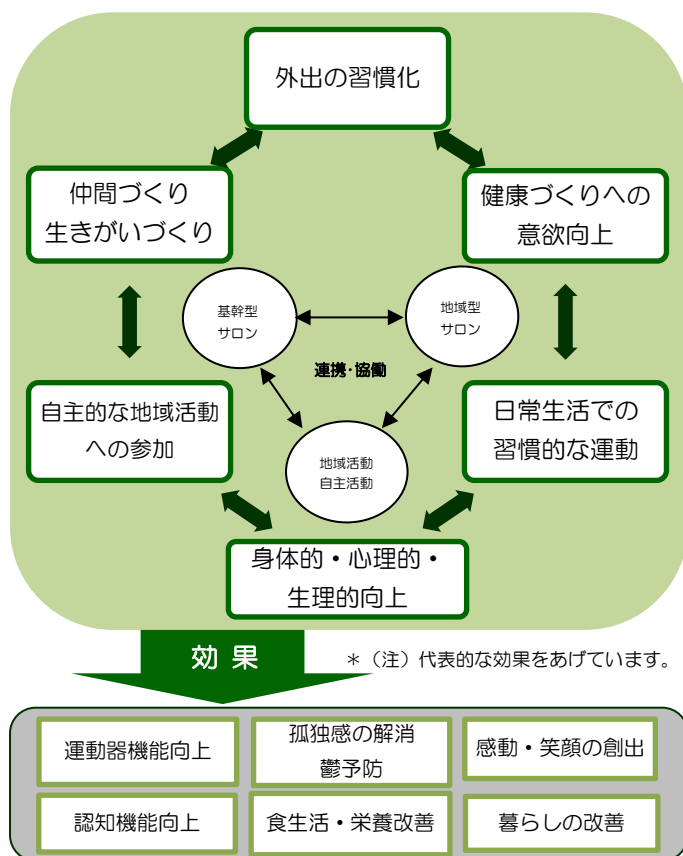
③ 介護予防好循環システムの強化

閉じこもりがちな高齢者は、それが原因で、廃用性症候群や認知症へのリスクが高まる傾向にあるため、民生委員・児童委員とその背景や社会関連性等を把握・分析し、校区社協と協働で、本人の意志を尊重した外出の習慣化の方法を見つけます。

更には、高齢者の運動器機能向上や認知症予防等、介護予防を推進する取り組みを積極的に行い、身体的・精神的・生理的・社会関連性等、様々な視点からの検証を通し、効果的な介護予防プログラムの開発と好循環のシステムを構築します。（図3参照）



図3 介護予防の好循環と効果



◇地域型ふれあい・いきいきサロン ～地域が主体的に運営～

地域の高齢者の方々がつどい、おしゃべりや趣味を通して「仲間づくり」や「健康づくり」を図り、日頃の楽しみや生活の中での困りごとを相談しあう地域の中のお茶の間のような場所です。最近では、地域の公民館やコミュニティセンター等、歩いて通える範囲に設置してあります。

◇基幹型元気はつらつサロン ～熊本市社会福祉協議会が運営～

熊本市老人福祉施設協議会の協力のもと、介護リスクが高い方を対象に、心と体の元気づくりを図るため、体力の向上や美容や音楽を活用した介護予防メニューを導入しています。

具体的施策

事業名	事業概要
ふれあい・いきいきサロン事業の推進	「仲間づくり」、「健康づくり」の拠点であるサロン活動の活性化と歩いて通える範囲に設置できるよう支援します。
高齢者の生きがいがづくりの推進	高齢者が知識や経験を活かした社会参加ができる場づくりを地域とともにすすめます。
基幹型元気はつらつサロンの運営	介護予防に効果的なプログラムの開発を行い、高齢者の心と体の元気づくりを図ります。
世代間交流の実施	地域の中で、子どもから高齢者まで、多世代間の交流が展開できる支援を行います。
元気づくり応援サポーターの養成	高齢者の介護予防を支援する専門スタッフの養成を積極的に行います。
介護保険サポーターポイント事業	65歳以上の高齢者を対象に、介護予防及び健康増進を図り、生きがいがづくりとしての高齢者の活躍の場を創設します。

活動の柱3 災害時にも強い地域づくり

現状と課題

災害は、私たちの予想もしないうちにおそってきます。その時、私たちは少ない情報やその場の判断などで、自分自身や家族の生命の安全を守らなければなりません。特に、高齢者や障がい者など、避難情報が伝わりにくい方や自力で避難することが困難な方は、災害時にはより被害を受けやすくなります。

アンケート調査や住民座談会の中でも、災害がおこった場合に不安を抱いておられる方が多く、地域住民や団体と協議をしながら、地域の実情に応じた避難支援体制の構築を図ることが必要です。

取り組みの内容

① 地域力を結集した支援体制の構築

災害時に不安な思いをされる方々を支える仕組みとして、情報伝達の方法や避難誘導等を含めた総合的な災害時の避難支援体制を町内毎に確立するため、自治会や自主防災クラブ、民生委員・児童委員等の地域関係者と連携・協働を図り、地域力を結集した支援体制の構築をめざします。

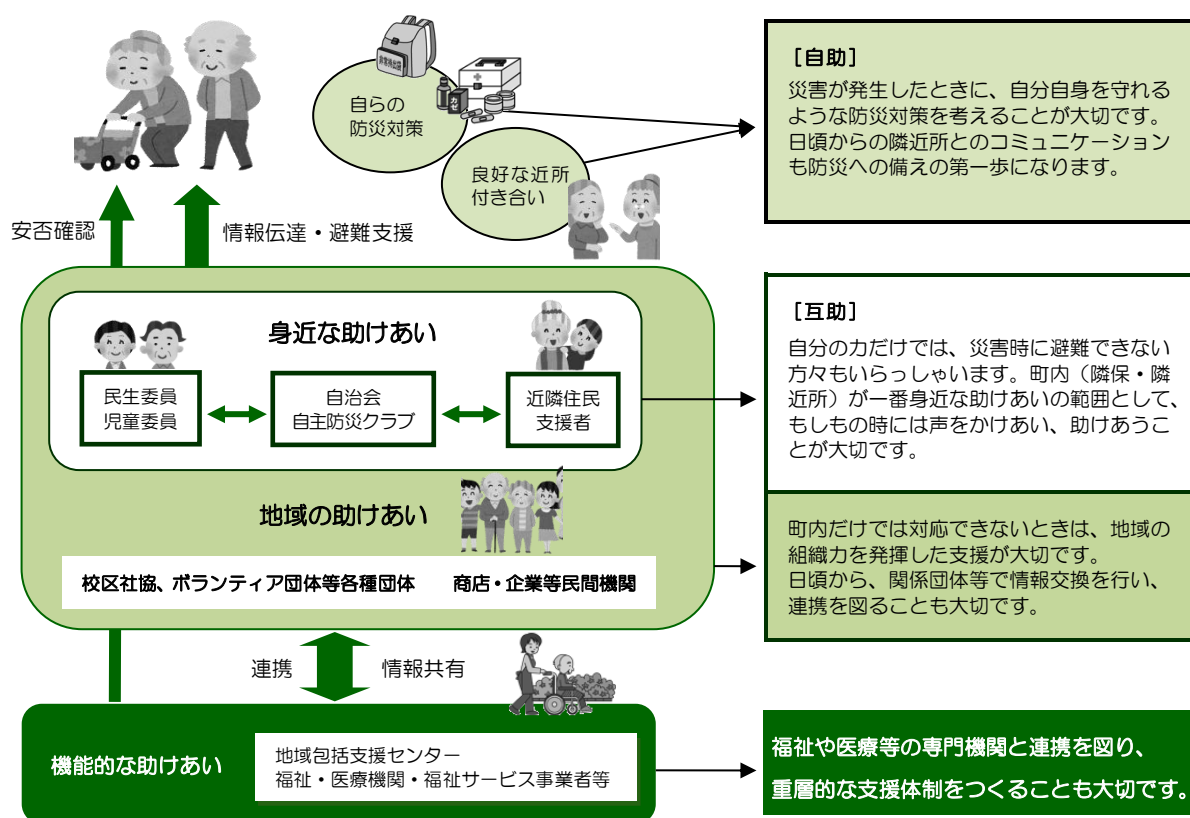
また、地震や風水害等、災害の種類によっては、川沿いの地域や農村部、山間部などの地理的条件によって、住民の避難や要援護者の支援等を妨げる様々な問題が生じると想定されます。地域の防災訓練等の検証を踏まえ、それらの問題点を分析・検証し、住民一人ひとりが平時から災害へ対する危機意識と防災への準備を心がけるような意識付けを図るとともに、地域において手助けが必要な方へは、日頃からの見守り活動等の地域の福祉力と連動した「地域の支えあい・助けあい」の体制づくりをすすめます。（図4参照）

② 災害時要援護者支援事業の充実

災害が発生したときを考えると、住民が避難経路や避難場所について事前に把握しておくこととあわせて、手助けが必要な方の存在を日頃から関係者が把握しておくことも大切です。個人情報の取扱いやプライバシーの問題等で、それらの把握が難しい状況ではありますが、熊本市から委託を受け、本会が取り組んでいる「災害時要援護者支援事業」を効果的に活用しながら、情報共有と計画的な支援体制の構築を地域とともにめざします。



図4 地域における災害時支援体制のイメージ



具体的施策

事業名	事業概要
災害時要援護者支援事業の推進	自治協議会や単位民生委員児童委員協議会等、地域の会合へ区事務所職員が積極的に参加をし、事業の趣旨説明や登録者へ対する個別避難支援プランの作成支援を行います。
高齢者SOSサービス事業の拡大	福祉施設や医療機関等と連携し、台風や大雨時に一時避難できる仕組みづくりを行います。
福祉避難所ネットワーク連絡会の設置	災害時における福祉避難所等設置運営に関する協定を締結した機関等と意見交換ができる体制を整備します。
災害ボランティアセンターの運営	災害時に設置する「災害ボランティアセンター」の役割について、全職員が共通認識を持ち、災害時に迅速かつ効率的な運営ができる体制づくりを行います。

